

氏 名 瀧 口 由 美

学位の種類 修 士 (看護学)

学位記番号 修 士 第 1 1 8 号

学位授与年月日 平成 2 1 年 3 月 2 5 日

学位論文題目 父母の抑うつおよび夫婦関係が児への愛着に及ぼす  
影響

- 妊娠末期から産後 2 ヶ月の縦断的研究 -

## 論文内容要旨

※整理番号	122	(ふりがな) 氏名	たきぐち ゆみ 瀧口 由美
修士論文題目	父母の抑うつおよび夫婦関係が児への愛着に及ぼす影響 — 妊娠末期から産後 2 ヶ月の縦断的研究 —		
<p>【研究の目的】本研究の目的は、妊娠末期及び産後 2 ヶ月の父母の抑うつ及び夫婦関係が胎児及び乳児への愛着へ及ぼす影響を明らかにすることである。</p> <p>【研究の方法】 妊娠末期の母親とその夫 50 組、および 50 組中産後 2 ヶ月に調査同意が得られた 29 組を対象に、2 時点における質問紙調査を縦断的に実施した。ただし、ローリスク初妊婦に限定した。調査内容は、①対象の属性および特性、②抑うつ（自己評価式抑うつ性尺度、日本語版エジンバラ産後うつ病自己評価表）、③夫婦関係（夫婦愛情尺度）、④児への愛着（父親および母親胎児愛着尺度、乳児への愛着尺度）とした。分析は得点比較、Pearson の相関係数の算出および重回帰分析を行った。</p> <p>【研究の結果】</p> <p><b>妊娠末期</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親の抑うつが高いと配偶者への愛情が低いこと、同様に母親の抑うつが高いと配偶者への愛情が低いことが明らかになった。</li> <li>・父親の配偶者への愛情が胎児への愛着に正の影響を与えること、同様に母親の配偶者への愛情が胎児への愛着に正の影響を与えることが明らかになった。</li> </ul> <p><b>産後 2 ヶ月</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親の抑うつが高いと配偶者への愛情が低いこと、同様に母親の抑うつが高いと配偶者への愛情が低いことが明らかになった。</li> <li>・母親の配偶者への愛情が乳児に対する愛着に正の影響を及ぼしたが、父親には認めなかった。</li> </ul> <p><b>妊娠末期から産後 2 ヶ月の変化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父親の妊娠末期の抑うつ及び配偶者への愛情が高いと、産後 2 ヶ月の抑うつ及び配偶者への愛情も高いことが明らかになった。</li> <li>・母親の妊娠末期の抑うつ及び配偶者への愛情が高いと、産後 2 ヶ月の抑うつ及び配偶者への愛情も高いことが明らかになった。</li> <li>・父親及び母親ともに胎児への愛着と乳児への愛着との関連性は認めなかった。</li> </ul> <p>【考察】 本研究において父親及び母親の児に対する愛着には配偶者への愛情が影響を及ぼすことが明らかになった。また、抑うつに関しても関連性が示唆された。したがって、周産期の夫婦に対しては、抑うつに対するケアを提供することや、安定した夫婦関係を形成するための支援が重要であると考えられる。一方、妊娠期と産後の児への愛着に関連性は認められなかったが、この背景には、妊娠期には示されなかった親子の相互作用が産後 2 ヶ月においては出現すること、また子ども自身の個性や気質が関係していると考えられる。</p> <p>【総括】 以上のことから、まず周産期にかかわる助産師・看護師は、妊娠期から産後の夫婦における抑うつや、児への愛着形成についての理解を深めた上でケアにあたることが重要である。一方、夫婦に対しては、集団教育や個別指導の場において、周産期における抑うつや、配偶者への愛情が児に対する愛着に影響を及ぼす可能性があることを伝える必要がある。また、妊娠期と産後の児への愛着に関連性は認められなかったが、妊娠期は親になるための準備期であるため、親への発達を支援することや、我が子に対する愛着形成を支援することが必要である。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。